

問

- ◎林業の再生・振興に向けた町の対策は
- ◎「木の駅かわね」の事業発展に向けた町の支援について
- ◎「桑野山貯木場」建物の活用について
- ◎町で製材所を運営する考えはないか



根岸 英一 議員

質問 町の総面積の94%が森林で、かつては主産業であった林業は、木材価格の低迷、採算が合わない、担い手がいない等の理由で依然として低迷している状況です。林業の再生・振興について対策を伺います。

町長 町の94%を占める山林の資源活用は林業振興のみならず、地域活性化においても重要であり、桑野山貯木場を林業振興の拠点として取り組みたい。57.8%の国有林があるが、国有林には技術屋も作業員もいない中、町が技術屋等の人材育成をしていくことが重要であり将来に繋がると考えている。

産業課長 国・県の制度を利用して、立ち遅れている間伐の推進、未利用材の利用について進めていきたい。森林再生と地域

経済の活性化を目指し「木の駅かわね」が始動しました。森林再生林業振興に向けての第一歩として、重要なプロジェクトです。事業発展に向けての町の支援等について伺います。



木の駅の集荷場(桑野山)

町長 「木の駅かわね実行委員会」の運営により60名の登録者と23件の登録商店があり、間伐の推進、地域活性化に繋がる事業として期待している。

山村活性化支援交付金で安全作業用ヘルメットを購入し無償にて貸与。パンフレットや昇り旗の作成。ガラ券

作成経費の支出をしている。今年度は、静岡県緑化推進協会の林地残材搬出奨励モデル事業として助成金が受けられることになっている。

質問 桑野山貯木場の土場は森林組合おおいがわに貸与とのこと。土場以外の建物の活用等について伺います。

町長 事務所・木工加工所・車庫等、町活性化に繋がる拠点として活用を図ることが重要です。例えば、町のエコツーリズムネットワークの活動拠点、伝統文化である茶箱の製作所、子どもたちが森林環境を学ぶ研修会場としてなど、林業と農業・観光を結びつける施設に活用が見込ま

れる。現在、募集方法、使用貸借の方法、料金等を検討しており年度内に決定する予定。

質問 加工所一カ所は小規模な製材所の設置が可能か。町で製材所を運営する考えはないか伺います。

町長 町内建築業者、土木業者等の製材等の需要もあり、将来的に製材所が町内から消えてしまうことも考慮すると、町に合った製材所が必要になると考えている。前向きに検討して実現を図りたい。



貯木場製材所(桑野山)

答

- 人材育成、間伐推進・木材の利用推進を
- 応援していくが実行委員会の自立を期待
- 林業と農業、観光を結びつける施設に
- 将来製材所が必要、実現に向け検討する



藺田 靖邦 議員

問

◎災害に強い町づくりについて
◎茶茗館の今後の対応、運営について

質問 他県での災害事例の課題は。

総務課長 判断、情報発信、防災への取り組みの促進が挙げられている。土砂災害に対する基礎調査や警戒区域等の指定が完了していない区域、地域も多い。

質問 危険個所の見直し等々、国県からの要請はあるのか。

建設課長 見直しは行っている。今後は平成28年度途中に新たな指定が行われる予定。

質問 見直しを受けて町はどんな対策をとるのか。

建設課長 警戒避難体制の整備等を今後進める。土砂災害ハザードマップの更新も含まれる。

質問 地区ごとに区分したハザードマップの作成は。

建設課長 地区である程度まとまったハザードマップも必要である。

と考える。今後更新に当たり検討する。

質問 判断基準の明確化、これには情報収集が考えられるが。

総務課長 気象庁の防災情報、県のサイボスリーダー、土砂災害情報マップなど積極的に情報収集、空振りを恐れずに避難勧告を発令する事が重要。

質問 緊急事態、大雨による避難行動要支援者の対応は。

総務課長 福祉課で本人申請による台帳作成、各地区、民生委員の方へのお願ひ災害時においては自主防災や消防団にも協力をいただく。

質問 情報システム構築と今後、更にICT利活用も含めどう捉えているか。

総務課長 予算の中でも、かねてフォンを利用した防災対策の一環として検討していく。

質問 土砂災害の一つ

の原因に間伐の急務が考えられるが木の駅事業の、もう一つのプロジェクトに考えられないか。

町長 積極的な陳情等をしながらか近隣の市との連携、一緒になって対応、今後の環境整備に重要な位置づけになる。

質問 茶茗館の方針が明確化しているのであれば施設の改修をお願ひしたい箇所がある。道の駅としての機能を

考えて駐車場の広さ、急な階段、一方通行の道路等。

町長 地域の皆さんと一緒にやって対応して

いく用地については地元である程度の対応をお願いしたい。

商工観光課長 バリアフリーに対応すると言う意味では、人にやさしい疲れのない階段工法も一度精査させて頂く。駐車場、道路に関しては新たな駐車場を確保するということを視野に入れていったほうが良いと思う。

質問 茶茗館のイベント事業の充実は。



「川根茶の日」イベントの様子 (H27.4.18茶茗館にて)

味わう場所としての機能を混同しないようにイベント情報や川根茶文化の情報発進する拠点にしていく。

質問 テーマが膨らむ発進場所の展開を。

町長 表玄関、奥座敷の位置づけ、多くの皆さんと協議して目玉になるようなストーリー性を作っていただけら良い。流域連携も大事だ

と思う。

◎災害に対する正しい知識、緊急時の正しい行動
そのための基礎作りを町でしっかり行う

◎管理担当を商工観光課から産業課へ、お茶が持つ空間、

味わい、時間という魅力を更に提供する

答

◎管理担当を商工観光課から産業課へ、お茶が持つ空間、味わい、時間という魅力を更に提供する